

Yaomania

“Yao”の「見たい」「行きたい」「ほしい」「知りたい」がいっぱい! ヤオマニア 2020 Vol.29

特集 八尾空港

冬号

◆八尾の「ものづくり」の現場から

◆河内木綿 復活した伝統工芸

◆未来を担う人材を 大阪経済法科大学

八尾の空から



八尾空港上空を飛ぶセスナ機。(航空カメラマン、阿施光南撮影)

★コースのお料理

国産黒毛和牛を使った
上質な肉料理を中心に
多彩なイタリアンメニューを
召し上がっていただけます。

ヴェルデコース (全5品)

- ◆季節の前菜
- ◆ベーコンを効かせたビシソワーズ
- ◆スペシャリテハネシタ、
黒毛和牛モモ肉
- ◆冷製麺 or パルミジャーノリゾット
- ◆クリームブリュレジェラート添え

¥5,500

ピアンココース (全6品)

¥7,700

ロッソコース (全6品)

¥9,900



「美味しい」のいいとこ取り

焼肉とイタリアンのコラボレーション

お肉は国産黒毛和牛のみ使用。
サイドメニューは本格&創作イタリアンをカジュアルに味わえます。



コース以外にも豊富なメニューを取り揃えています。

ANTIPAST (たとえばメインの前に)

フレッシュトマトのブルスケッタ	¥550
ベーコンをしっかりと効かせたビシソワーズ	¥660
淡路島産新鮮野菜達のサラダ	¥880
ローストビーフのサラダ	¥1,200

SIME (もう一品ほしい時)

NISHIYAMA冷製麺	¥1,100
パルミジャーノリゾット	
すね肉のワイン煮込み添え	¥1,320
黒毛和牛テールの焼きリゾット	¥1,320
うにクリームソース温麺	¥1,880

大阪ブランド牛 大阪ウメビーフ

梅酒の漬けウメの
飼料で育ったとろける旨さ
八尾では
当店のみご提供

黒毛和牛ステーキ

イチボ	¥2,200
ラムシム	¥2,200
リブロースブリアン	¥2,420

黒毛和牛焼肉

カルビ	¥990
ロース	¥1,380
ハラミ	¥1,680

表記の金額はすべて税込価格です。



NISHIYAMA

YAKINIKU・TRATTORIA

この広告をお店までご持参ください。

スタンプ押印でサービスゲット!

ランチ 50円 OFF
(火~土・ランチコースを除く)

ディナー ワンドリンクサービス
(平日のみ火~金・1組4名様まで)

★種類はスタッフまでお問い合わせください 有効期限:2020年2月29日



LUNCH (ランチ)

黒毛和牛カルビDON	¥1,000
黒毛和牛カレー	¥1,280
黒毛和牛ハンバーグ	¥1,500
焼肉ランチコース*	¥3,300
Premiumランチコース*	¥5,500

*ランチコースは前日までのご予約制となっております。

焼肉トラットリア西山

〒581-0003
八尾市本町7-2-1 サンパレス八尾2階
TEL 072-929-8429
http://www.nishiyama29.com



QRコードから
お店情報・クーポン情報を
ゲットしてください。

営業時間:

LUNCH 11:30~14:30 (LO13:30)
DINNER 17:30~23:00 (LO22:30)

定休日:月曜(祝日は営業)

★日曜日はLUNCHは営業していません。



近鉄八尾駅より徒歩約2分。
「おおなか歯科クリニック」様
ヨコの階段をご利用ください。
エレベーターもご用意。
お問い合わせください。

スタッフ募集中!! お気軽にご連絡ください。

特集 YAO AIRPORT

八尾で一番空に近い場所!

八尾空港

今回の特集は八尾空港。八尾市の南に位置する八尾空港は、面積69.7ha(甲子園球場約18個分)。1,490mと1,200mの2本の滑走路を持つ、れっきとした地方空港だ。旅客定期便運用はしていないが、関西、大阪、神戸の3空港で対応していない航空需要に役立っている。その運営内容や、空港の歴史、そして、空港に事業所を置く多くの航空会社の中から3社の事業にスポットを当てた。これらを通して八尾空港全体のイメージをつかんでいただけたらと思う。



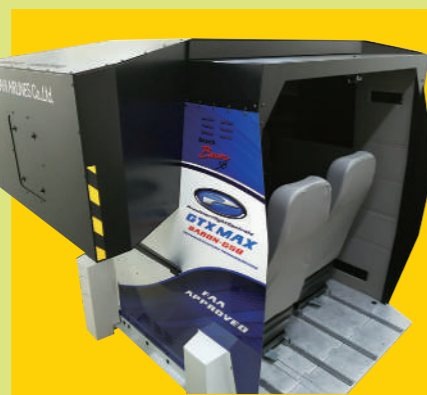
それは、飛行学校が始まりました。八尾空港の歴史は、1933年(昭和8年)までさかのぼる。操縦士の育成を目的とした阪神飛行学校の開校がその始まり。その後、陸軍の専用飛行場「大正飛行場」として接収され、大規模に拡張された。戦後はGHQ(連合国軍総司令部)に接収され、「阪神飛行場」と呼ばれ、その後、日本政府に返還され「八尾飛行場」と改称。1961年(昭和36年)に空港整備法により第2種空港の指定を受け、「八尾空港」として今に至る。

現在、八尾空港は、国土交通省の管轄の下、管理運営されている。空港法に基づく空港の分類では「その他の空港」に位置づけられている。おもな運営内容は約180機のセスナ機やヘリコプターが常駐。航空写真撮影、訓練飛行、遊覧飛行、航空宣伝業務、報道取材対応など各種の業務で利用され、それらを行う民間航空会社が多数事業所を置いている。年間発着回数は約1万2千〜3千回と多い方だ。また、民間の業務だけでなく、大阪府警や大阪市消防局の航空隊も常駐しているほか、陸上自衛隊八尾駐屯地も隣接している。災害や事件・事故といった非常時には、救難・救助活動のための緊急出動に対応する空港でもある。

それは、飛行学校が始まりました。八尾空港の歴史は、1933年(昭和8年)までさかのぼる。操縦士の育成を目的とした阪神飛行学校の開校がその始まり。その後、陸軍の専用飛行場「大正飛行場」として接収され、大規模に拡張された。戦後はGHQ(連合国軍総司令部)に接収され、「阪神飛行場」と呼ばれ、その後、日本政府に返還され「八尾飛行場」と改称。1961年(昭和36年)に空港整備法により第2種空港の指定を受け、「八尾空港」として今に至る。



駐機しているヘリコプターからの眺め。【第一航空】



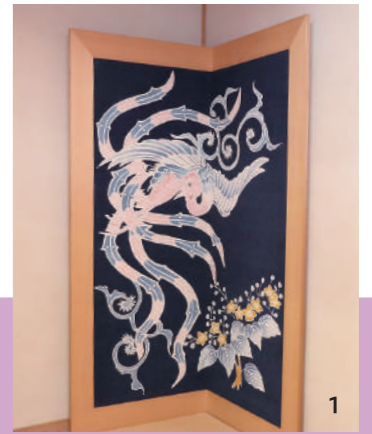
操縦訓練のためのシミュレーター。【朝日航空】



駐機場にズラリと並んだ小型機。奥は、各航空会社の格納庫。



【写真1】伝統的な鳳凰と桐をデザインした衝立。【写真2】藍染保存会の会員であった故出口暢穂さんが手書きで書いた大和川の付け替え工事の風景。【写真3】保存会の展示室に展示されている大作の着物。【写真4】紡機。



現代に甦る八尾の伝統工芸
かわちもめん
河内木綿

明治30年代に歴史の表舞台から姿を消した「河内木綿」。その河内木綿が近年復活し、美しい藍染めの技術と伝統的な河内木綿文様と共に、再び脚光を浴びようとしている。

八尾が誇る工芸品であった河内木綿は、河内平野で栽培された綿を紡ぎ手織りされた綿織物。「繊維が短くて太く、織られた生地も厚くて丈夫なのが特徴」と語るのは、河内木綿の復活と伝承に力を注いでいるNPO法人「河内木綿藍染保存会」の梅村保子理事長。ふだん着、布団生地、のれん、酒袋など幅広く使われ、とくに、婚礼布団や筆筒油単(たんすゆたん)筆筒を汚れや日焼けから守る。布の覆いなどは花嫁道具の一つとして欠かせないものだったという。

元々綿栽培が盛んなった河内地域で河内木綿が産業としてさらに発展していったきっかけが、宝永元年(1704年)の大和川の付け替え工事。江戸幕府は、度重なる氾濫に悩まされていた大和川の規模を付け替え工事に着手。この工事で旧大和川の川床を畑として開発。これにより綿栽培が益々盛んになり、それとともに河内木綿も全国的に広まってきた。「江戸中期以降、八尾周辺の村々は河内木綿を売買する商人でにぎわい、かなり豊かだったようです」。

Yao Collection

歴史が息づく美と技を発見

河内木綿藍染保存会の梅村保子理事長(右)と主宰代理の原田やよいさん。河内木綿文様をあしらった暖簾が味わい深い雰囲気を醸し出している。



綿の認知度は上がっている。また、保存会事務局内の工房「河内木綿藍工房 村西」で、糸紡ぎ体験、機織り体験を実施。さらに、同工房では河内木綿文様の型紙彫り、糊置き、藍染めまでの一連の工程を学ぶ講習会も常時開催。後継者の養成と伝承に力を入れている。村西氏の思いを引き継いだ梅村理事長は、こうした流れを一層前進させ「人でも多くの人に河内木綿を知ってもらい、継承して欲しい。復活した河内木綿ブランドが全国に広まれば」と期待する。

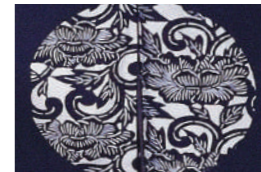
村西氏の熱い思いを引き寄せられた人達によつて活動の輪は広がり、今では中央環状線の高速度路下での綿の栽培や、その収穫祭を市民や近くの小学生参加で開催するなど、河内木綿の認知度は上がっている。また、保存会事務局内の工房「河内木綿藍工房 村西」にて、梅村理事長自ら機織り機の前で機織りの動作を再現していただいた。同工房では【写真4】の紡機による糸紡ぎや、この機織りも体験することができる。



保存会事務局内の工房「河内木綿 藍工房 村西」にて、梅村理事長自ら機織り機の前で機織りの動作を再現していただいた。同工房では【写真4】の紡機による糸紡ぎや、この機織りも体験することができる。



工房での糊置き作業。



展示室には、河内木綿文様の見本や代表的な作品などが並べられていて、その多彩な文様の美しさに圧倒される。





夜間遊覧は年末のみ対応。



百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録で遊覧飛行が大盛況。



ヘリコプターの操縦席。

航空写真撮影のパイオニア

第一航空



ヘリコプターでの遊覧飛行もおすすめ。

取材当日も、東京からの団体ツアー客が遊覧飛行目的で来ていた。お目当てはもちろん、世界遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」。遊覧のセスナ機は4人乗りだが、操縦士を除くと一度に乗れるのは3人。この日使用していた2機のセスナは、ピストン輸送で30数人の団体客に対応していた。その第一航空だが、他の八尾空港を拠点とする航空会社同様、小型機による様々な事業を展開しているが、実は航空写真撮影が事業の柱。「航空写真の撮影が売り上げの大半」という。「航空写真はパイロットとカメラマンとの連携が大事」。40年以上にわたって航空写真を提供してきたノウハウを活かし、土地計画から各種パンフレット、学校や地域のメモリアル写真まで、幅広いニーズに応えている。

第一航空株式会社

八尾市空港2-12(八尾空港内)
お問い合わせ
TEL:072-923-8095
http://dai1air.com

救難対応、情報収集、報道活動対応、航空人材育成など、私達の暮らしに役立っている空港だった

今回紹介する第一航空は、航空写真撮影に定評があり、2社とも航空機を用いた多くの事業内容の中でも、それぞれの得意分野で営業実績を伸ばしている。また、同空港には飛行機好きの趣味から始まった歴史ある飛行クラブもいくつかあり、第一航空のようにクラブをルーツに持つ企業も少なくない。朝日航空もアマチュア飛行クラブの運営をしている。まさに飛行機好きが集まっている空港と言えるだろう。だから、同空港の駐機場には個人所有の小型機が並んでいることも珍しくない。他の地方では、便数の少ない定期便によって維持・運営され、閑散としているローカル空港も見られる中、八尾空港は二本の滑走路を備え、旅客定期便こそ無いが、色々な目的の多くの小型機が離着陸する、活気ある空港で、扉ページでも触れたように、救難などの緊急時には、頼れる空港でもある。

八尾空港は小型機に特化したプロの集まり
八尾空港の滑走路脇の駐機場には、小型機に特化した多くの航空会社の格納庫が並び、様々な航空事業を行っている。その中で、2019年夏号でも紹介した朝日航空は、設立当初から、パイロット養成に力を入れて来た歴史がある。一方、



マニアックな「パイロットショップ」カフェも兼ねている。



マニア垂涎のグッズも。

航空機の売買と整備の会社

エアロラボ

エアロラボ インターナショナルは、アメリカで航空機の機体の売買や整備などを行っていた鼓呂雲健造氏が、整備士やパイロット仲間と5年前に立ち上げた会社で、アメリカでのノウハウを活かし、航空機の国内外の売買と自社格納庫での整備をしており、その格納庫では、塗装を剥がされた航空機や解体された機体、プロペラなどのパーツに囲まれ作業が行われていた。車の車検整備と同じように航空機の定期検査のための整備に特化した会社だ。そのエアロラボ社がユニークでマニアックなショップを格納庫に隣接してオープンさせた。店内には滑走路を模した定規や八尾空港のネーム入りのキーホルダー、航空用の地図、パイロットグローブなど、数多くのグッズが並んでいる。戦後初の国産機「YS11」のロゴ入りマグカップやボールペンもあり、マニアにとっても気になるショップだ。カフェも兼ねており、八尾空港内で働く人達がぶらっと立ち寄り、息抜きの場となっている。



aero lab

株式会社 エアロラボ インターナショナル

八尾市空港2-12(八尾空港内)
お問い合わせ
TEL:072-990-1232
Pilot Shop
TEL:072-943-1033
http://aerolab.jp/

民間随一の パイロット養成実績

朝日航空



シミュレーターを使っでの操縦訓練。



教官との実地フライト訓練で操縦の感覚とテクニックを身に付けていく。

朝日航空株式会社

八尾市空港2-12(八尾空港内)
お問い合わせTEL:072-991-7245
http://www.asahi-air.com

1967年創立の朝日航空株式会社は、約半世紀にわたり八尾空港を拠点に、小型機による事業を続け、その大きな柱として、エアラインパイロットへの養成を行っている。パイロットへの道は、航空大学や大手航空会社の養成カリキュラム、民間の養成施設やフライトスクールなどの訓練で一定の飛行経験を積み、国家試験(学科試験・実地試験)を受験する必要がある。同社はプロのパイロットとしての就職に必要なライセンス取得を目指す人に教育訓練を実施している。同社は20歳代の訓練生



が多く、現在訓練生は57人。それぞれに高い目的意識を持って航空知識や技能の習得に励んでいる。同社は小型飛行機15機を保有しており、養成事業のほか、遊覧飛行、航空写真撮影など様々な飛行サービスを行っている。

取材にご対応いただいた担当の方々にお聞きした



朝日航空株式会社
営業課
嶋村洋一 担当課長

航空会社はどれも深刻なパイロット不足。養成施設の役割はますます大きくなるでしょう。当社の訓練シラバスには定評があり、航空会社への就職率は90%以上。近年の主な就職先はANAウイングス、ジェイエア、ビーチ・アビエーションなど有名航空会社から。機長に昇格した訓練生から連絡をもらった時はうれしかったですね。



第一航空株式会社
業務部
山田哲武 撮影士

長年航空写真撮影の分野で実績を積み上げてきました。鳥の目線で事実を伝えるのが航空写真。2019年の「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録で、遊覧飛行に注目が。個人的にはヘリコプターがおすすめですが、セスナ機でも十分楽しんでいただけます。写真には納まりきらない光景をお約束。海外からのお客様にも楽しんでいただきたいと思います。



株式会社 エアロラボ インターナショナル
パイロットショップ
藤井麻貴 マネージャー

前職でのお客様が八尾空港の関係者が多く、当社創立時にパイロットショップのスタッフとして声をかけていただきました。実際に夢を叶え、パイロットになるたくさんの操縦訓練生を見て、航空業界に関心を持つようになりました。この業界は知れば知るほど楽しい。このショップが八尾空港内や近隣とのコミュニケーションの場になればと期待しています。



◀ロケーションを活かし、実践的な学修プログラムによる教育を実施する「八尾駅前キャンパス」。その外観と講義風景。



大阪経済法科大学

「実学」の実践と「地域活性化」に貢献

大阪経済法科大学が緑豊かな花岡キャンパスに加え、立地に恵まれた都市型の八尾駅前キャンパスを開校したのは2012年4月。これを機に八尾市と同大学は包括的な連携協定を締結して、密接な協力関係を築き上げている。より身近になった市民と大学との関係。行政、産業、文化といった幅広い分野での交流を追ってみた。

CAMPUS REPORT



中井英雄副学長

3,500人の学生が学ぶ 二つのキャンパス

八尾市に本部を置く唯一の大学として「大阪経済法科大学」は、その名の通り、経済と法学を学ぶことを目的に1971年に設立された。

「経済と法律は車の両輪との考えから『経済と法律、両方の学問の修得による人格の形成』というのが建学の精神です」。こう語るのは中井英雄副学長。これに「実学の精神を持った人材の育成」「人権の伸長と国際平和への貢献」を加えた三つの建学の精神のもとに、現在約3,500人が学ぶ。

経済学部と法学部でスタートしたが、2016年に国際学部、2019年に経営学部を開設、建学の3精神に基づいた教育体制が整った。こうした努力の結果、少子化が進む中、「8年連続で受験者数は伸びており、偏差値も上がってきています」（真田健富入試広報部長）という。

広い敷地に多くの施設を備えた花岡キャンパスは1、2年生を中心とした授業を展開。一方の八尾駅前キャンパスは、より専門的な知識を学ぶと共にキャリア形成や資格取得の場となっている。また、その立地の良さを生かして地元企業との連携による実践的な活動も行われている。

八尾駅前キャンパスの開校で地元との連携促進へ

八尾市と結んだ包括連携協定の一環として始まった「八尾市商業活性化プロジェクト」もその一つ。商店街が抱える課題解決に向けて、学生がアンケート調査を実施したり、地域の魅力を発信するフリーペーパー「やおセレクション」を発行するなどの活動を行っている。他にも「河内木綿プロジェクト」では、実際に学生が綿の栽培から収穫、製品企画、製造販売に至るまでを体験。伝統工芸の河内木綿を現代的な発想で盛り上げようと取り組んでいる。

さらに「法学部の学生などは市議会を見学に行ったり、市役所にはインターシップに行かせてもらっています」と中井副学長。公務員を目指す学生も多いだけに、こうした体験は心強い。



市民講座で地域貢献。防災などでも連携
一方、地域の人々とのふれあいを深めるための「土曜市民講座」も人気だ。2012年からシリーズ化しているが、市民の生涯学習の機会を積極的に提供している。



市とは防災面でも連携している。12階建ての八尾駅前キャンパスは、地震などの災害時の避難所として指定されており、また花岡キャンパスでは毎年、八尾市消防本部の協力の下、合同の消防訓練を実施している。「学生による消防隊を編成、校内には消防本部から譲り受けた消防車もあって、実際にホースで放水するなど本格的な訓練を行っています」。

協定に関しては、2019年に印象深い出来事があった。八尾市の事情で市の成人式が、急きょ花岡キャンパスの体育館で開催されたのだ。「準備や警備など大変でしたが、隣の東大阪市の成人式後継に駆けつけるなどして想定していた以上に賑やかになり、本当にうれしかったですね」と中井副学長。市との包括的な連携は、こんなところでも実を結んでいる。

2020年には創立50周年を迎える大阪経済法科大学。50年の歩みの中でしっかりと地元へ根づき、そして次代を見据え、専門教育の更なる充実とグローバル化をめざしている。

大阪経済法科大学

本部・花岡キャンパス 八尾市楽音寺6-10
TEL: 072-941-8211

八尾駅前キャンパス 八尾市北本町2-10-45
TEL: 072-920-4711

<http://www.keiho-u.ac.jp>



1. 高い天井に植栽が心地いい。
2. タルト風のミニバウム。
3. 自転車のパーツがアート作品のよう。
4. 2階へと続くスロープが独特の雰囲気。
5. オブジェのようなスプロケバウム。
6. 全国からサイクリストが来店されますと語るブランド事業部の佐々木勇人さん
7. エントランスのロゴとアイコンがおしゃれ。
8. しっとり生バウム。
9. スイーツはお持ち帰りもできる。
10. 自転車がテーマのお店。展示もアートっぽい。



外環沿い、黒い外壁とシンプルなロゴ、「極」バウムクーヘンカフェの看板が目立つ大バコ。ここは「自転車のある日常」をテーマにしたサイクリスト御用達のカフェ。

「自社のアパレル商品の倉庫をリフォームしました」と語るのは、カフェを運営する株式会社メルヘンの常務取締役、木下紀幸さん。高い天井、広い屋内は映画のスタジオのようだ。「近くの十三峠はサイクリスト達、特にヒルクライムの聖地。じゃあここに自転車でも入れるカフェを」と2017年にオープン。

主力のスイーツは「本場・神戸仕込みの」バウムクーヘン。北海道産の生クリームとアカシアの蜂蜜を使い、店内のファクトリーでじっくり22層に焼き上げる。「FJバウム」と名づけたミニバウムは人気のチーズインバウムなど10種、そしてトゲトゲのあるスプロケバウム。自転車の後輪の変速機、スプロケットをイメージして出来上がった。

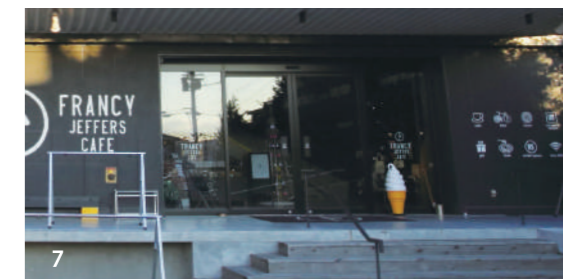


1階はカフェエリアのほかFJブランドのテーブルウェアやファッション雑貨、食品などの売り場が併設。自転車でも上がれるスロープで2階へ上がると何台もの自転車が。新城幸也選手が、リオ五輪ロードレースを走ったメリダ製のバイクも展示。さすが「サイクルカフェ」。

広い空間にはソファやハンモックが並び、イベントのスペースも。自転車の試乗会なども行われるそうだ。「うちは他社ブランドのOEMや自社ブランドのネット通販が主力ですがこのカフェのように自転車をテーマにした展開も考えたい」。お店のテーマは自転車だが、売りはあくまでバウムクーヘン。阪神間の芦屋川沿いにも姉妹店がオープンした。



人気店の最新情報から
あまり知られていないユニークなお店まで
そんな八尾のお店をご紹介します



スタイリッシュ空間の
おしゃれなカフェ

Francy Jeffers Cafe



フランシー ジェファーズカフェ

- 営業時間：9時～18時30分
- 定休日：無し
- GW・お盆・年末年始・日曜日も休まず営業
- 住所：八尾市水越1-149
- お問い合わせ：
TEL 072-927-9067
<https://francyjeffers.com>

この人に聞く INTERVIEW



平成27年の商店会連合会の貸切イベントで近鉄八尾駅に臨時停車した観光特急「しまかせ」。

商店街は地域の要。60周年を機に より地元根ざした頼れる存在へ

「しまかせ」による周年記念の旅行企画
◆八尾市商店会連合会は今年、発足60周年を迎えられます。林理事長もこの記念すべき年を「商店街の活性化の契機にしたい」としてやる気満々とお聞きしましたが。



八尾市商店会連合会理事長 林 滋 氏

◆「しまかせ」を貸し切って行う伊勢志摩旅行。実はこれは今回が初めてというのではなく、「しまかせ」が運行して間もない平成27年9月に各商店会が一致協力して実施した。

八尾市域の商店街を支え、商業の発展に寄与してきた八尾市商店会連合会。現在11の商店会を束ねる組織として、「地域への貢献」と、商店会会員の経営基盤の確立に大きな役割を果たしてきた。その八尾市商店会連合会が令和2年、発足60周年を迎える。これまでの60年の間に、商店街を取り巻く環境は大きく変化してきた。日本の高度成長とともに商店街も発展していったが、やがて商業形態の変化、生活様式の変化など、時代の変化に対応しきれず、厳しい環境にさらされている商店街があるのも事実。しかし、この時代だからこそ、新たな商店街の価値を見だし、アイデアを駆使して活性化へ向けての取り組みも行われている。その先頭に立つ就任6年目の林滋理事長に、令和となって初めて迎える新しい年の、初夢、抱負を語っていただいた。



恒例となった、経済法科大学の学生が参加しての新栄商店会の餅つき大会。

とがあるイベントなんです。電動リクライニングのゴージャスな座席にサロンのくつろぎと、乗ること自体が楽しみといわれる豪華列車の旅は、大いに人気を博しました。
あの「しまかせ」が八尾駅に臨時停車ですよ、周囲の知らない人はびっくりしてましたし、それだけでも話題になりました。
◆今かがついても、当時のワクワク感が伝わってきますね。このイベントはどういった経緯で実現したのですか？
林：近鉄さんと元々縁が深く、近鉄高安車庫が近くにある高安さんから商店街では毎年鉄道関連のイベントで盛り上がりがあります。今回の企画も、そうした縁から何とか実現したというわけです。

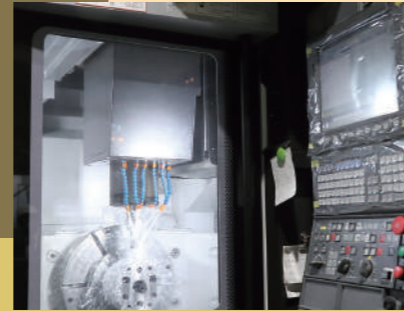
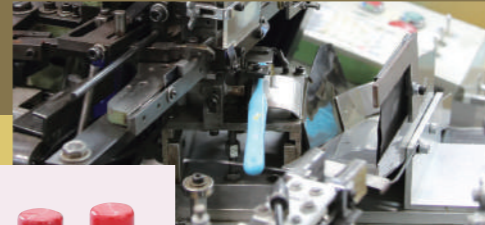
◆確かに面白そうだし、八尾ならではのイベントになるかもしれませんね。ただ、歩行者天国の実現には、行政や警察など関係官庁との調整もありハードルも高そうですね。
林：それが一番のネックですね。そこで、もっと簡単なイベントとして空き地や公園、お寺の境内などでフリーマーケットを開催できないかと検討しています。フリーマーケットにやってくる若い人たちが、商店街にも足を延ばしてくれて、その良さに気付いてくれれば今後の波及効果が期待できると思うのですが、フリーマーケットは季節を問いませんし、企業や大学とのコラボにも期待

◆商店一商店街でできることには限界があるとの持論をお持ちの林理事長ですが、もう二期待しているのが他のいろいろな企業、団体とのコラボレーションとお聞きしました。中でも大阪経済法科大学とのコラボには、大いに期待を寄せている。
林：大阪経済法科大学の八尾駅前キャンパスが開校されたのは平成24年4月のこと。大学側も地域との交流を重視していて、大学としては極めて珍しく商店街新栄商店会の会員になっていただきました。
これまでも地域の餅つき大会やイベントなどに学生さんが参加してくれていますが、先日、大学の先生と話をしていたら、「もっとうちの学生さんを使ってください」と言われました。
◆学生さんの若い感覚と行動力が、商店街をどのように変身させるのか楽しみです。
最後に、今、最も商店街の活性化にとって重要な事は何でしょうか。
林：それは、まず会員を増やすこと。商店会に未加入の店舗には新たに会員になってもらい、また商店会連合会に未加入の商店会も連合会に加入してもらって、みんなで連携して盛り上げていきたい。そのために積極的に働きかけていきたいと思っています。
令和元年10月1日に消費税が引き上げられました。前回の時のような駆け込み需要やその後の落ち込みといった影響は少なかったようです。しかし、軽減税率の導入やキャッシュレスによる消費者還元事業など、新制度のしくみが複雑すぎて、多くの商店では対応が遅れているのが実情。いろいろな課題山積の現状ですが、60周年という節目を、活性化に向けてのきっかけの年としたいと思います。
(敬称略)

◆今号も八尾市の商店街を紹介しています。詳しくは14、15ページをご覧ください。

MONO ZUKURI

八尾の「ものづくり」



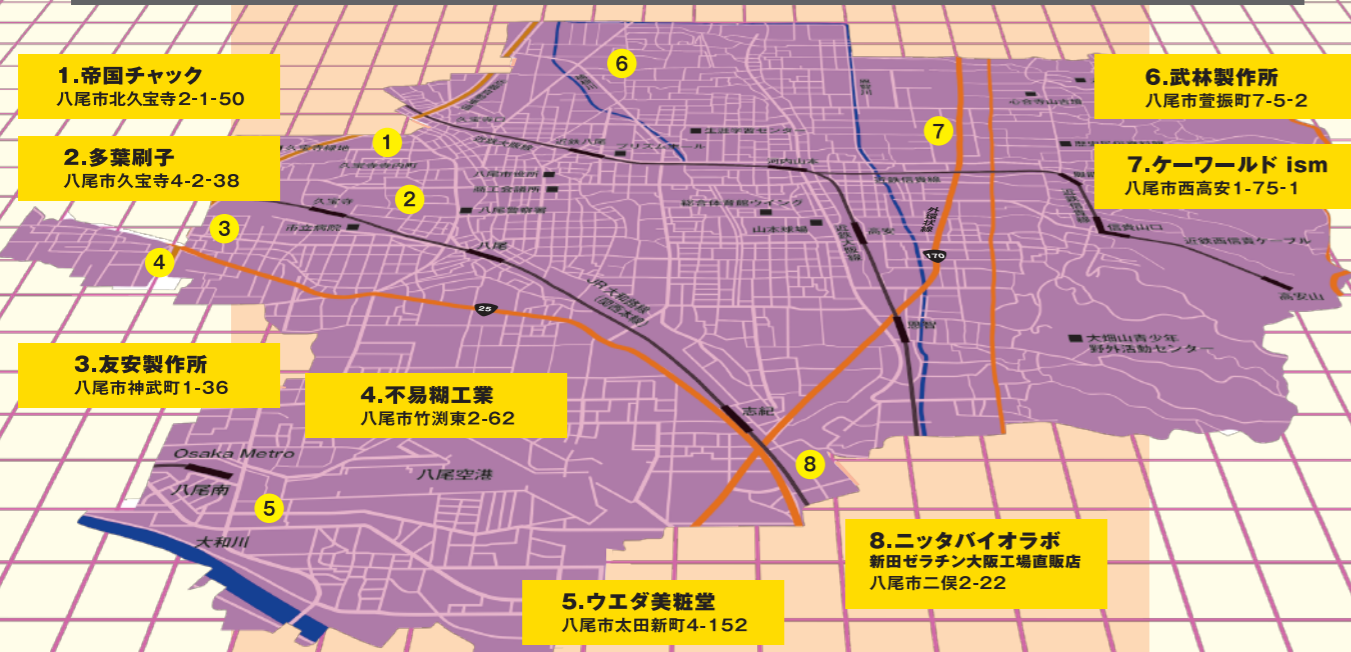
工業製品の出荷額、大阪府下第4位、事業所数、全国第12位(2019)。大阪府の東部に位置する八尾市は全国有数の中小企業が集まる「ものづくり」の街である。古くは江戸中期より盛んだった河内木綿。明治からは歯ブラシ製造で発展。今では機械、自動車部品、電子部品、化学製品など幅広い業種にわたる。河内木綿は明治になり、海外からの安い綿の輸入と自動織機による木綿生産で衰退したが、河内木綿作りの繊細な技術は八尾の代表的な地場産業である歯ブラシ製造に引き継がれた。今や歯ブラシのシェアでは全国一。

MONO ZUKURI

◆最先端技術やトップシェアを誇るオンリーワン企業も少なくない。そして、それらを支えて来たのが、製造の歴史とともに培われてきた「匠の技」だ。八尾商工会議所では毎年、長年の経験や研ぎ澄ました五感で、機械では成し得ない限界を超えた精度の製品を造り出す匠を「八尾ものづくり達人」として表彰している。

◆これまで、新版「aomani」は、さまざまな企業を取り上げてきたが、今回、八尾の「ものづくり」を銘打って、新たに注目の企業3社を紹介し、また、これまでに本誌に掲載された企業の中から再度5社にスポットを当て、八尾の技術水準の高さを改めて実感できる「ものづくり」の現場と企業活動を紹介し

MONOZUKURI MAP





70年目の
自社ブランド開発で
新たなフィールドへ
多葉刷子工業所

MONO ZUKURI

歯ブラシ製造で人々の健康を陰で支え続ける

歯ブラシの生産量日本一の八尾市、その地元で歯ブラシ製造一筋に歩んできた多葉刷子工業所は、令和元年、創業70周年を迎えた。この節目の年に、大阪府や大阪商工会議所連合会などが進める「大阪ものづくり優良企業賞」を受賞。昭和24年以来、OEM(納入先ブランド製品製造)で祖父の代から「コンシ」と積み上げてきた技術と品質管理が認められたのだ。

歯ブラシは小さな商品だが、人にとって健康生活の第一歩であるオーラルケアを支える重要なもの。人の口に入れるものだけに、口の中で違和感のない、毎日快適にブラッシングできる、より良い製品が求められる。写真でもお分かりのように現在は製造現場も自動化が進んでいるが、最終的には、やはり経験と技能によって、価値ある製品が生まれていく。

その多葉刷子工業所が、70年目にして、はじめて自社ブランド商品を開発。それは、何と「小型犬用の歯ブラシ」。かねがね「自社ブランドを」と考えていた多葉宣宏社長にとっては念願の新商品。なぜ犬にも歯ブラシが必要なのか。「犬の口内は人間と異なりアルカリ性なので、虫歯にならない代わりに歯周病になりやすいからだ」という。開発には獣医さんのアドバイスを得ながらの試行錯誤の連続だった。

最大の特徴は、毛の素材にヤギや馬などの天然毛を採用したこと。従来の人用で使用するナイロンでは犬にとって固すぎて歯磨きを嫌がり、ストレスの原因に。しかし、細いヤギや馬の毛を植え付けるのは至難の業。しかも一つの穴への植毛数はナイロンの5倍から10倍必要となる。これらの課題を、蓄積してきた技術と丁寧な作業によって一つひとつ克服していった。

開発を振り返って、多葉社長は、「この自社ブランドの実現で、改めて自社の技術への誇りと、新たな未来が見えてきた」と今後への意欲を語った。



多葉宣宏社長

犬の歯周病を初めて知ったのは「義父母の飼っていた愛犬が歯周病になり、全身麻酔されて一挙に数本の歯を抜かれたこと」からだ。多葉社長。人のお口のケア商品である歯ブラシを長年作り続けてきた者として、「家族の一員である愛犬の健康に貢献できる商品を」との思いが、自社ブランドを開発するきっかけだったという。愛犬が健康で長生きして、気持ちよく歯を磨けるよう、飼い主向けに磨き方の動画をネットに掲載するなど、啓発にも余念がない。



あなたの大切な歯を守る歯ブラシが
作られていく製造現場 (写真1~4)

- 1本1本丁寧に検品していく。
- ドイツ・ザホランスキー社製のコンピュータ制御による植毛ライン。
- 植毛後の歯ブラシの毛先をカットし、毛先を揃えたり丸めたりする毛切り工程。
- 手際良く歯ブラシの元を植毛機に補充していく。

◀初めて開発した自社ブランド商品「ミガケンデ」。日本初の小型犬用歯ブラシだ。植毛の材質が違うため、新たな技術や製造工程が必要となった。



有限会社多葉刷子工業所

八尾市久宝寺4-2-38
TEL: 072-922-3429
http://tababrush.com



業界の草分け
90年余の歴史
帝国チャック

MONO ZUKURI

工作機械の性能を左右する「チャック」製造

「チャック」と聞いて、「フラスナー」を思い浮かべる人は多いかもしれない。しかし、機械製品としてのチャックとは、主に旋盤(工作機械)で切削加工をする際に主軸に取り付けて、工作物を掴む(つかみ)主軸の旋回を工作物に伝えると同時に、しっかりと把握姿勢を保つための機器のこと。あえて訳せば「工作物保持機器」。

昭和元年に創業。アメリカなどから輸入されていたチャックを独自技術で国産化したのが始まり。「もつと安くて高精度のチャックを」というユーザーの期待に応えたもので、業界の草分けと言える。

「わが社の特徴はすべて受注品であること。従って在庫もありません」と寺坂創介社長。ユーザーの目的によって求められる品質、精度を確認し、オーダーメイドで一品、一品造っていく。工場内の研磨機や加工機の横に並ぶ半製品には、それぞれの仕様が描かれた設計図が添えられているのがその証だ。

「売りたい商品は造らない」というのが、創業者である寺坂清五郎の「モノ造り」の理念。その魂(SOUL)は90年以上を経た今も引き継がれている。「SOUL」は同社の社名の「つ」でもあり、デザインチャックのブランド名にもなっている。

「ユーザーの90%以上が自動車業界という。モータリゼーションの発達と共に、チャックのニーズも複雑・高度化してきているのが実情。そうしたより困難な要望に果敢にチャレンジしてきた結果、難物チャッキングは帝国」への評価が得られるようになった。それを裏付けるように、これまでに「元気なモノ作り中小企業300社」「大阪元気一ものづくり看板企業193社」などにも選ばれている。90年余の技術の蓄積をもとに、令和の時代も「オンリーワン企業」としてあり続けるだろう。



チャックには、機械の取付部、機能、目的によって「揺動引込式」「コレット式」「ダイヤフラム式」など様々な形状があり、それら個々の難しい把握条件に応えるのが、オーダーメイドチャックである。

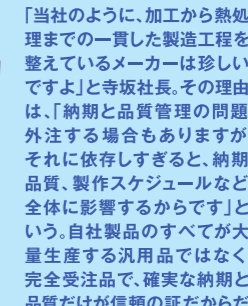
1. NC(数値制御)装置を搭載した旋盤などによる加工。プログラミングに基づき自動的に加工される。
2. 3. 潤滑と冷却を目的に、水溶性の油剤をかけながらの切削工程作業。
4. 創業者の理念「魂智和」が刻まれた石碑。「魂」(SOUL)は当社の象徴である「智慧」は創造の根源である「和」は繁栄の基礎である



ますます複雑・高度化するユーザーニーズに応えるための切り札が、経験豊かなベテラン技能者の技。匠の超繊細な手作業の感覚には、最新鋭ハイテクマシンも敵わない。

帝国チャック株式会社

八尾市北久宝寺2-1-50
TEL: 072-923-1821
http://www.teikoku-chuck.com



「当社のように、加工から熱処理までの一貫した製造工程を整えているメーカーは珍しいですよ」と寺坂社長。その理由は、「納期と品質管理の問題。外注する場合もありますが、それに依存しすぎると、納期、品質、製作スケジュールなど、全体に影響するからです」という。自社製品のすべてが大量生産する汎用品ではなく、完全受注品で、確実な納期と品質だけが信頼の証だからだ。



寺坂創介社長

普段はシビアなその納期が、昨年、受注してから8か月後という非常事態となった。リーマン・ショック以来右肩上がりに成長し続けてきた同業界。「今年に入って、ようやく通常の3か月程度に戻りました」。米中貿易戦争や自動車業界の変革などを見据えながらも寺坂社長は、技術で信頼を勝ち取る独自路線を突き進む。



4

製品への誇りと確かな技術

これまで、Yaomaniaで取り上げた企業の中から、その「ものづくり」の技術とポリシーが、目に見える形で、人々の豊かな暮らしに、直接、間接に結びついている取り組みをピックアップしました。(順不同)



株式会社 ケーワールドism
平成15年(2003年)創業
八尾市西高安1-75-1
TEL:072-924-5100
http://k-worldism.com

1滴残らず使える“優れモノ”シャンプーボトル

ハイレベルの金型技術・成形技術で、住宅設備はじめ釣具、化粧品、薬品など幅広い分野の部品づくりに貢献している。平成28年に発売した1滴残らず使えるシャンプーボトル「シャインシリーズ」はテレビでも紹介され一躍ヒット。ボトル底面の「ひみつのプロペラ」(特許取得)が、残った液をスムーズに集める“優れモノ”だ。社名の「ism」は、innovation(革新)spirit(精神)molder(形成者)の略。

2019年夏号に掲載



株式会社 武林製作所
昭和47年(1972年)創業
八尾市菅振町7-5-2
TEL:072-998-1207
http://www.tmc1972.com

歯ブラシ金型でトップシェアを誇る

八尾の地場産業のひとつ、歯ブラシの金型で全国トップシェアを誇る。金型は、たい焼き器のように上下に分かれ、溶かした樹脂を流し込んで歯ブラシの柄をつくる。毎日口に入れて使う製品なので、バリ(不要な突起)を出さないよう金型にはわずかな摩耗も許されず、99.9%完成しても、0.1%未完の部分があれば不良品といわれるほど高い精度が求められる金型に、武林製作所のものづくりに対する情熱とこだわりが凝縮している。

2019年夏号に掲載



株式会社 ウエダ美粧堂
昭和20年(1945年)創業
八尾市太田新町4-152
TEL:072-948-1034
http://www.cosme-bisyodo.com
E-mail:info@cosme-bisyodo.com

オンリーワンの化粧筆で世界へ

日本唯一の原毛輸入加工会社。毛材質に徹底的にこだわった化粧筆・メイクブラシづくりは国内トップクラス。優れた原毛を見極める「目利きの技」、原毛本来の美質を導き出す「精毛の技術」、究極の肌触りを実現する「穂先をつくる技」にこだわり、既存品とは一線を画した化粧筆を提供する。進化を続けるメイクアップの世界でたゆまず挑戦を続け、OEM(納入先ブランド製品製造)にも力を入れている。

2018年冬号に掲載



株式会社 友安製作所
昭和23年(1948年)創業
八尾市神武町1-36
TEL:072-922-8789
http://tomoyasu.co.jp

おしゃれな「見せるインテリア」を気軽に安く

設立以来、カーテンフック・線材加工品の製造販売を主体に成長。自社ブランド「COLORS」を立ち上げ、インテリア用品、資材を低価格で提供し、DIYの楽しさを提案してきた。本社はJR久宝寺駅前。近年、自社製品を生かしたデザイン性の高い店舗デザイン、賃貸物件のリノベーション(改修)に依頼が殺到。平成30年にデザインパッケージを中心としたリノベーション事業「友安製作所工務店」をスタートさせた。

2018年夏号に掲載(TOPICSページ)



株式会社 ニッタバイオラボ
平成16年(2004年)創業
新田ゼラチングループ
大阪市西区九条南1-2-20
お客様センター
TEL:0120-713-178
(受付:平日9-18時)
http://www.nitta-biolab.co.jp

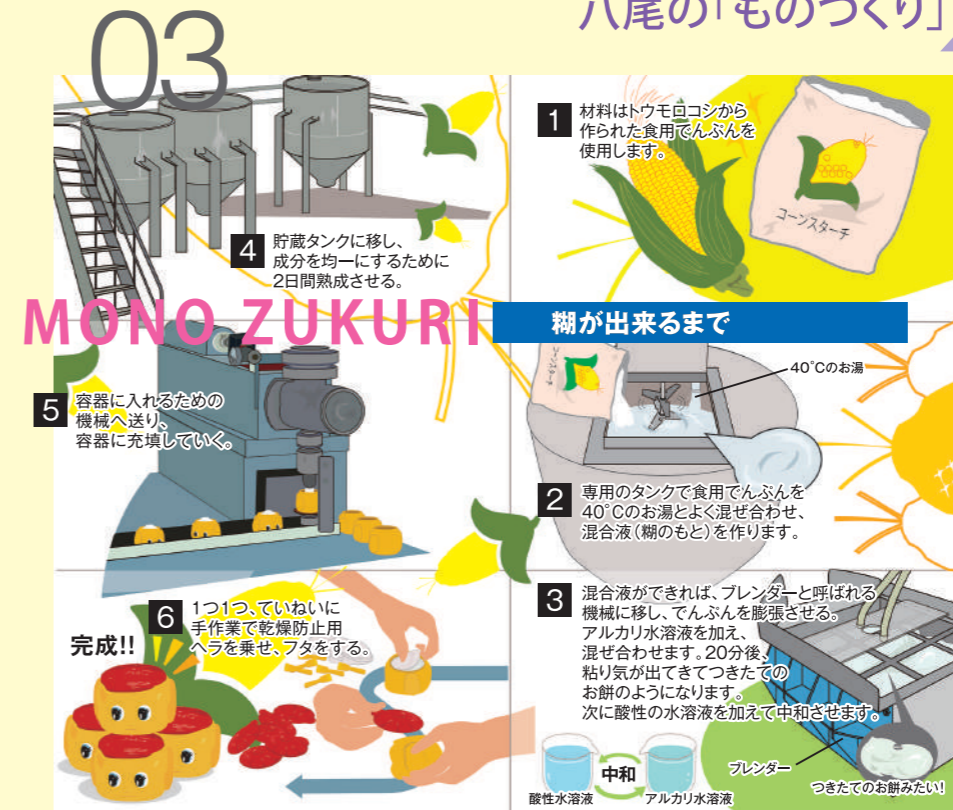
ゼラチン・コラーゲンで健康生活を支える

ゼラチン・コラーゲン原料で国内での高いシェアを誇る、新田ゼラチン株式会社(本社・八尾市)からコラーゲン事業を引き継ぎ、高品質のコラーゲン補給食品、コラーゲン飲料、化粧品など、美容と健康をサポートする様々な商品を展開、売り上げを伸ばしている。通販をメインに「いつまでも元気で若々しくありたい」という人々の願いに応え、コラーゲンの可能性を追求し続ける。新田ゼラチン大阪工場(八尾市二俣2-22)内に直売店がある。

2019年春号に掲載

MONO ZUKURI

上記5社のこれまでの掲載記事をご覧になりたい方は、八尾市観光協会のホームページのYaomania/バックナンバーをご覧ください。HPアドレスはこちら▶ <http://www.yaomania.jp>



工場スナップ
工場に準備された大量のコーンスターチ(トウモロコシから作られた食用でんぷん)。
専用タンクにコーンスターチを投入し混合液を作る。
ブレンダーに移し、アルカリ水溶液を加え、粘りがでるまで糊化させる。その後中和する。

安全で無害な糊の開発で次代へチャレンジ!

「創業は明治19年(1886年)」と言われていたが、糊メーカーとしてスタートしたのは明治28年のことと渡辺哲也企画開発室長は説明する。
九州の特産品を大阪へ運び販売をしていた創業者の足立市兵衛がでんぷん糊を開発したのが不易糊のおおよその始まり。それまでの糊はコメを潰して作られていたが、1日もたてば腐ってしまうのが難点だった。「腐らずに長持ちする糊は出来なにか」という多くの人の要望に応えて、ホルマリンを防腐剤として採用することで実現。いつまでも腐ることなく、不変の品質を誇る」という意味から「不易糊」と名付けられた。「不易」は中国・荀子の「萬世不能易也(永遠に変わることなし)に因んだものである」。
不易糊工業は明治から長い歴史を刻んできた老舗企業だが戦後になって、看板商品の糊に使われていたホルマリンに発がん性があることが分かり、直ちにホルマリンを使わない糊の研究開発に着手。昭和61年に完成させたのがホルマリンを使用しない、安全無毒の「でんぷん糊」である。完成まで17年を要しました。この安全な糊の開発で、不易糊はたちまち全国の児童・幼稚園児の間に広がり、今では幼稚園児の70%以上で使われているという。
そして平成20年に参入した化粧品事業は今、「フエキコスメ」として急成長している。「フエキくん」のかわいいキャラクターのハンドクリームやリップクリームが若い女性を中心に人気を呼んで大ヒット。子どもたちの不易糊を使っていた30代、40代の人には「フエキくん」が懐かしいという思いがあるようですと渡辺さん。
でんぷん技術ではオンリーワン企業としての自負をもつ同社だが、130年を超える伝統を大切にしながらも、新しい時代にふさわしい商品を自由な発想で開発している。



▲真中は定番商品の不易糊「どぶつ」。両端は液状の「フエキくんグルー」。容器がかわいい。

同社は、糊の老舗メーカーとして文具製品を中心に、生活に役立つ糊に関する多彩な製品の開発・販売を行ってきたが、その一方で筆記用具を中心に工業用の製品も開発。また「フエキくん」のステーションリーグッズなども展開し、およそ10年前からは化粧品事業にも進出。経営の多角化、商品の多様化を進めている。



渡辺哲也企画開発室長

「今は生産が追いつかない状況です」とうれしい悲鳴を上げる渡辺室長。ハンドクリームなどの化粧品はかわいいキャラクターが人気で、テレビでも紹介されることも多い。また、国内だけでなく「容器が小さくて、価格もお手ごろなことから外国人観光客のお土産としても人気を集めています」という。そのために香港でも「フエキくん」のキャラクターは、よく知られているとか。輸出も着実に伸びて来ており、今、本社工場では生産増強に向けて増改築の工事が急ピッチで進められている。

不易糊工業株式会社

代表取締役 梶田安彦
八尾市竹濠東2-62
TEL:06-6709-3735
http://www.fueki.co.jp



FUEKI COSME





4



2



3

サポーター制度で注目度アップ 北本町中央通商店会

攻めの姿勢で、賑わいを

近鉄八尾駅の北西にある北本町中央通商店会が出来たのは大阪万博開催の昭和45年。その翌年シヨバース八尾店52年には八尾サティと大型店が出店し、八尾市内でも最も賑わう場所でした。と商店会の勝浦宏祐(こうすけ)会長(55歳)は語る。喫茶店「香留壇」かるだん(のマスターである会長は自家焙煎コーヒーを淹れながら、今日までの商店街の移り変わりを見続けてきた。



北本町中央通商店会 勝浦宏祐会長

を開放している。そうした商店街の活性化へ動き出した同じ時期の平成24年に、大阪経済法科大学「八尾駅前キャンパス」が開設された大きな弾みにもなった。現在、イベントやお店の情報は商店街のホームページやSNSで発信。全国的にも注目を集め、中小企業庁の「はばたく商店街30選」にも選ばれた。

お客さんの満足が「売りの花屋さん。そして女性客御用達の串カツ店！

北本町2丁目交差点前で40年以上続く「岡村生花店」は、切花、鉢花を中心に贈答用や観賞用などのニーズに応えてくれる。「毎日、新鮮なお花で満足していただけるように」と、お墓参りの途中で仏花を求めて来られるお客さまも多いですね。ここが



8



7



6

1. 大西さん夫婦の似顔絵看板が目印のお店。居酒屋「ふじき」。
2. 人気のハラミ焼肉サラダ。
3. カツ10種盛りは1,000円。カツは1本100円からとリーズナブル。
4. 今日も仲良くカウンターに立つ2人。
5. 喫茶店「香留壇」のマスター勝浦さん。北本町中央通商店会の会長だ。
6. どことなく懐かしい雰囲気のお店街。
7. 新鮮なお花を愛情込めて販売している。
8. 観賞用や贈答用のお花も豊富に揃っている。



1

新。女性役員も増やし、多くの組合員の意見が反映される商店会組織へ。「それが平成24年頃。そこから商店街サポーター制度が誕生しました」。閉鎖的になりがちな商店街を活性化するため、内外から「企画・運営で参画してもらえ。環境を整備。サポーターは誰でも歓迎。自由に登録して参加してもらえたら」。出されたアイデアは次々実現している。各店の商品開発「逸品づくり」や子供の職業体験「商店街ツアー」、親子参加のハロウィンイベント、露店市「お速夜(たひや)」にちなむ「YAOTAIYAMARKE」…。また、商店街全体を歩行者天国にする特区事業計画も大阪府に申請している。

代表 大西信浩さんのおすすめは、絶品タコ串カツ。刺身用のタコ足のフリフリした食感がそのまま味わえる。そのタコも入った串カツ10種盛りは1,000円。人気はハラミ焼肉サラダ。皿いっぱいの野菜サラダになんとハラミ焼肉をトッピング。サラダにタレが程よく絡んで、見た目かなりの量だが、野菜たっぷりでヘルシーなので女性客でもべりりだそうだ。

高架下に親しみとぬくもり溢れる ペントモール八尾 協同組合

「ペントモールは近鉄八尾駅高架下商店街の総称。西から順に1番街、2番街、3番街、ペントプラザ、5番街と並び、グルメやフードのお店が中心で2、3番街にはファッションインテリア、サードスペースのお店も。「昭和53年の近鉄八尾駅高架化に伴って整備が始まった商店街です。現在の店舗数は61。八尾市最大の商店街です」。大衆酒場「がちや」の宮根佐敏さんは「ペントモール八尾協同組合の理事長に就任したばかり。49歳の若さで活性化の先頭に立っている」。



ペントモール八尾協同組合 宮根佐敏理事長



昭和の風情と隠れた名店 八尾銀座商店街

夕暮れ時、改札を出ると小さなネオンにかりが灯る。八尾銀座商店街は懐かしい昭和の雰囲気を残す小さな通り。飲食店が近鉄八尾駅西口からファミリーロード入口までの100mに軒を並べる。「近鉄八尾駅は高架になるまで地上駅の改札口が今のファミリーロード入口あたりだったので、ここが表通り。道の両側に店が並び、文字通り銀座の賑わいでした」。商店街で会計を務める、焼き鳥「鳥公(とりこう)」の乾公(とるさん)(75歳)は、そう懐かしむ。高架化に伴い新しい大型商店街が誕生。人の流れが変わったが、八尾銀座商店街周辺にスナックビルが増え、そこからお客さんが常連になった。「自慢の焼き鳥は、変わらぬ味と喜んでくれます。小さな商店街ですがどの店もお客さん第一で愛される店づくりをめざしています」と乾さん。この通りには、港から直送の海の幸が味わえる名店「裏町酒場誠貴(せいきや)」がある。代表の鹿島誠さんは4年前まで鮮魚の仕入れ業者だったという。プロの目で買った魚はどれも新鮮でうまいと評判。舌の肥えた常連客で連日賑わっている。



今や裏町の雰囲気も魅力となった風情ある商店街。

近鉄八尾駅前西武八尾店やアリオ八尾。平成29年の西武撤退後はリナスが開業し、大型ショッピングモールと駅を直結する高架歩道が開通して人の流れが変わった。ペントモールの素通りが多くなり、がたがた「商店街の店」とにパワーを最大限に発揮すればお客さんを取り込むことはできます。各店の個性と魅力。たとえば「がちや」はメニューの鮮度や味にこだわる。「うちの自慢は唐揚げ。絶対に揚げたての一番おいしいものを。お持ち帰りも揚げたてが基本」。お酒のおすすめは奈良・吉野で生まれた果実酒の逸品「くまんぼち」。

高架下に沿ってお店が並び。

「前に進むには、できることから少しずつ。それが現状打破につながる」。ペントモールはどの店もじっくり腰を据え、未来を見据えている。



豊富な料理と各地方の日本酒が自慢の大衆酒場「がちや」。ペントモールの顔といってもよいお店。ご主人も組合理事長だ。



8



八尾銀座商店街 乾公商店街役員(会計)

「おすすめはクエ。和歌山から直送の天然もの。身がしつかり、脂もたっぷり。クエ鍋は最高です。ほかにも玄界灘の天然車海老造りや高知の活き鮎通し、南水洋のミンク鯨造り…。食通にはたまらない。のれんには「裏町酒場」とある。「気がついたら、こちらは駅前の裏町になつてしまっただけ。裏町にもええ店がありまっせ」という思いです。今ある個性を深めて、コアに愛される商店街をめざす。

「誠貴や」代表の鹿島さん。元は鮮魚仕入れ業だった。



食通にはたまらないお品書き。新鮮な海の幸が味わえる。

